

令和5年（2023）度事業報告書

（令和5年4月1日から 令和6年3月31日まで）

〔認定特定非営利活動法人 こども医療支援 わらびの会〕

1. 事業実施

★ わらびの会運営組織の明確化、既存事業の継続と発展を図る。

- 【1】ファミリーハウス「がじゅまるの家」運営：理念に添って統括主任を中心に、利用者が安心・安全に心身共に安らげる滞在施設となるよう努めた。県立図書館一括貸出システム（6か月）の継続利用により、保護者向けの本の充実を図った。
- 【2】病院ボランティアに関する事業は、今年度も民間福祉基金の助成を受け、第32・33期 病院ボランティア養成講座を実施した。琉大病院も少しずつ活動を再開しつつあり連携して軌道に乗る様双方で検討を行った。
- 【3】広報事業は、毎月のホームページの更新、会誌発行等により広報に努めた。「認定NPO法人」取得により、税法上の優遇措置が受けられる事を周知するリーフレットを作成し、会員の増員並びに資金調達（寄附金集め）を積極的に行った。
- 【4】その他、目的達成事業の一つであった県小児慢性特定疾病児自立支援事業（ピアカウンセリング事業）を事業として変更した。こども医療センターでピアサポート活動を行った。・県立北部病院・名護療育医療センターは休止。初級編・ステップアップ編のセミナーを実施し、サポーターの養成と増員を図り、病児とその家族の支援に努めた。
- 【5】その他、目的達成事業
 - ◎ 合同クリスマス会を開催し、病児者やその家族がコロナ禍で色々な制限を受ける中、少しだけ解放され楽しい時間を共有できた。
 - ◎ マリンレジャーイベント(仮称)：美らSUNビーチで普段体験の出来ないマリンアクティビティ体験で構成団体会員にアウトドアを楽しんでもらい、リフレッシュを提供した。
 - ◎ 「がじゅまるの家」でのきょうだい児 預かり保育の実施した。
 - ◎ コロナウイルスの影響により休止していたこども病院ラジオ(キラキラぶればランド)を再開にあたり準備中。
 - ◎ 夢プロジェクトは、名護市との対話における企画提案を基に名護市の事業者公募している。
 - ◎ 病児・障がい児親の会からの申請はなかった。

2. 事業の実施に関する事項

【1】 特定非営利活動に係わる事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円)
遠隔地病児家族等の宿泊施設運営事業	ファミリーハウス「がじゅまるの家」受託運営	4月～3月 24時間体制	ファミリーハウス「がじゅまるの家」	12人	病児とその家族、ハウスマップ 他	10,631
病院ボランティアに関する事業	病児家族の支援活動をする病院ボランティア養成講座(第32・33期)の開講	8月・2月	こども医療センター	20人	一般市民・学生 60人	206
	病院ボランティアの活動支援と活動中のボランティアのスキルアップのための勉強会開催	通年	こども医療センター	5人	病院ボランティア 100人	
ピアカウンセリングに関する事業	ピアカウンセリング活動の実施	通年	こども医療センター わらびの会 各構成団体	延べ150人	子育て及び病児家族	1,370
	ピアサポートセミナー及び勉強会開催	10月	こども医療センター	10人	わらびの会 会員 他60人	
広報事業	ホームページ管理・更新	通年	わらびの会 事務局	1人	会員・医療関係者・ 一般市民	438
	わらびの会だより発行・リーフレット印刷・広報冊子作成	10月	わらびの会 事務局	5人	会員・関係機関・ 一般市民	
その他 目的達成事業	合同クリスマス会開催	12月	こども医療センター	80人	わらびの会構成団体の病児ときょうだい及び家族 250人	118
	マリンレジャーイベント【仮称】	7月	美らSUNビーチ	100人	わらびの会構成団体の病児ときょうだい及び家族	376
	がじゅまるの家 預かり保育・病児・家族支援	不定期	がじゅまるの家	35人	がじゅまるの家 利用家族	124
	こども病院ラジオ(キラキラぶればランド)	—	こども医療センター	—	医療センターに入院中の病児家族・ハウス利用家族	0
	夢プロジェクト(わらびの会交流会)	—	沖縄愛楽園	—	わらびの会 成団体家族	0
	病児障がい児親の会 活動支援助成金	—	各親の会 活動拠点	—	県内病児障がい児親の会	0

【2】 その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円)
自動販売機による飲料水販売事業	調整中					—